

平成25年度自己評価中間報告書

重点目標	具体的取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	中間評価	分析・改善策等
1 基本的な生活習慣の確立を図るために、個々の生徒の実態を把握し、一人ひとりに対する適切な生徒指導に努める。	① 積極的な声かけ・挨拶を通じて、円滑な人間関係の構築を図る。	【成果指標】 挨拶ができた生徒の割合。	挨拶ができた生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒調査 86.2% 評価 B 教員調査 50.0% 評価 D	挨拶を返すことはできるようになってきたが、自ら進んで挨拶をするまでには至っていない。それが生徒・教員調査の差となって表れているのは昨年と同様である。「あいさつは自らするものだ」ということを学校生活全体で伝えたい。
	② 遅刻・欠席防止のために、家庭との連携を密にする。	【成果指標】 年間5回以上遅刻する常習者を昨年度77名より減らす。	年間遅刻回数5回以上の生徒数 A 70名未満 B 70名以上 C 80名以上 D 90名以上	4月～7月の遅刻回数5回以上の生徒数 35人 評価 C	このままのペースでいくと2月調査時には80人を超える。すでに4回に達している生徒もいるので、その生徒達への指導が必要である。同時に、全校生徒に対し、時間を守る意識の向上を図る工夫をしたい。
2 基礎学力の定着とともに発展的学習を取り入れることにより、多様な生徒に対して向学心及び学習意欲の喚起を図る。	① 基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	【成果指標】 個に応じた指導や教材、教具の工夫によって、授業内容がよく分かったと答える生徒の割合。	授業がわかりやすいと感じた生徒の割合 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒調査 90.0% 評価 A	全体的には基礎重視の授業が行われているので、わかりやすいと感じる生徒は多い。しかし、個に応じた指導がなされているかは今後の課題である。特に発展的学習を必要とする生徒に対する工夫が必要である。
	③ 課題・宿題等について工夫するとともに、提出を徹底させる。	【成果指標】 課題・宿題等を期日までに提出する生徒の割合。	提出状況が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒調査 83.3% 評価 B 教員調査 58.4% 評価 D	課題の提出状況は学年が進むにつれて向上している。教員調査の値が低いのは、促されて提出するのではなく、生徒自らが考えて主体的に課題に取り組む姿勢を教員側が求めている表れであろう。粘り強い指導を継続していく。
3 早期に進路意識の高揚を図るため、適宜、具体的な進路情報の提供と、志望進路実現のための支援体制及び支援内容の充実に努める。	① 3年間を見通した指導計画に基づき、能力・適性に応じた支援・指導を行う。	【成果指標】 自分の進路に関心を持つようになり、将来を前向きに考えられるようになった生徒の割合。	進路意識が向上した生徒が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	生徒調査 76.4% 評価 B	当然ながら3年生は目前に進路決定が迫っており意識は高い。1年生においては10月、2年生においては11月に進路学習が予定されているので、次回調査時にはさらにA評価に近づく予定である。